「たったひとつのたからもの」を見た後、涙と共に深い思いをした。

　ダウン症の知識が昔から少しあったのだが、あまり詳しく知らなく誤解していた。ダウン症だと、何もかも苦労する人生になると思っていた。成長しても3歳の子供と同じような能力を持つじゃないかなと勝手に思っていたし。

　この映画を見るとその考え方が変わった。見終わったところで少し調べたりし、ダウン症にかかっている人が長く生きることもでき、普通に仕事もできるのが書いてあって少し恥ずかしかった。とても見下していたようで申し訳がないと感じたし。

　遺伝的な問題で、もし自分の子供がダウン症になったらどうするかと聞かれると、正直分からない。今は、早速流してくださいや、キープするよと簡単に言えるかもしれないが、その時になって真剣に考えないといけないと思う。これから少しでも心の準備をしようと思っている。